

White

壁の向こう側

白昼夢を見ていたのだろうか。
 気がつく私はどこか知らない街の中に立っていた。誰も私に気がつかず、私の横を多くの人がすり抜けいく。だれもがうつむき忙しそうに早足で過ぎ去っていく。みな沢山の用事を抱えている。見上げると街は白く、空も白い。すべてが白く平らでのっぺりとしている。規則正しく並ぶ白いビルは、まるで切り絵の舞台装置のようだ。急ぎ足で立ち去る人々は影絵のようで実体がない。切り絵の舞台の裏側には実は本当の世界があるのに、だれかが隠して見せないのだ。よく見ると私の身体も白い粉をまぶしたように白くなっている。その手、足、どれも自分のものだという感じがしない。髪・・・髪も白くなっている。首筋、耳、目、思わず手のひらを伸ばして顔に触ってみると！ それは誰かの、知らない誰かのものだった。

恐怖に、今度は本当に夢から醒めた。
 時折思い出すあの家。
 何本もの道路に挟まれたあの家。でもあの頃はまだとても静かだった。夜になると、ご機嫌の酔っ払いがふらふら歌いながら下駄をからんからんならして歩いてた。壁の向こうはお隣の家で、お隣も、うちと同じ家だった。外の物干し台からは、空の月や星がよく見えて、物干し台からお隣へ遊びに行くと叱られたっけ。でも、あの壁が時々とても怖かった。土で出来た壁をほじくっていくと、お隣に行かれると思って、どんどんほじくっていると、急に穴が開いて、何かが見えたんだ。そこは、真っ白な世界だった。私はその穴からたくさんの白い人たちが歩いているのが覗いていた。白いビルも、白い空も見えた。とても怖かったのを覚えている。時々思うんだ。あの壁の温かい部屋と、壁の向こう側の白い世界と、どっちが本当なんだろうって。



COLUMN



IZABERITE NAJBOLJE

SPONZOR POLICE ORKE

鎌倉の猫事情 第六十一話

まあ、とにかくその時までは生傷が絶えなかったのです。毎日毎日朝から路地の見廻りをして、敵の侵入を見張っていたかっただけでしょう。その信念は固いものだったと思います。そのせいなのか、あの額の大きな傷の代償なのか、その頃は裏路地にも静かな時が流れていました。グーニー君の様子も落ち着き、例の額の傷もすっかり目立たなくなって安心しすぎたのです。少しずつグーニーの身体が痩せて来ているのに気付きました。そういえば行動にも変化が現れていました。以前は部屋の中でも高いところへ上るのが好きで、よくテレビの上に寝そべって時々片目を開けては、人の動きを眺めていたのですが、その頃は、前には決して入らなかったテレビ台の下にもぐりこんで、じっとするようになっていました。ソファの下は愛妻スィーピーの縄張りのようで、たまに退屈まぎれに2匹で喧嘩をする時にも、スィーピーがソファの下に逃げ込んだらそれで騒ぎは終わりです。グーニーは何があってもソファの下には入ることはないのです。よく、ソファの前に座り込んでスィーピーが顔を出すのを待っていることがあります。しかしテレビの下にも猫の大嫌いな掃除機があるのです。だから前にはそこにも入らなかったはずなのに、気がつくとも掃除機の横でじっとしているのです。初めは気にかけていませんでした。喧嘩して怪我をするなんてことはしょっちゅうでしたから。でも、ある日掃除機の横からこちらを見上げるグーニーの血走った目を見て始めて気付いたのです。グーニーが弱りきっていたことに。鋭い目をして座り込んでいるその身体は骨ばって、時折小さく唸り声をあげるその顔は三角になって薄汚れて見えます。私が気付かないうちにグーニーは、傷ついた獣のようになっていました。やっとなら、ただ事ではないのに気付いて、お水や食事を与えようとしても、歯を食いしばっているばかりです。そういえば、少し前からあまり食べなくな



っていたのです。なんとなく、毎日忙しくしているうちに、すっかり見逃していました。弱っていても、いつもグーニーは喧嘩腰でしたから、元気そうに見えていましたが、グーニーなりに危機に瀕していたのです。痩せこけたグーニーを抱き上げてみると、その身体は、骨ばってごつごつとして、軽くなっていました。

to be continued

Letter

アフリカ ブルキナファソへ

ブルキナファソに行った佐藤君、お変わりないですか。手紙ありがたう。ブルキナファソにもプレハブにパソコンを置いているインターネットカフェがあるんですね。お水は、ドラム缶に入れて売って歩いている少年から買うのだそうですね。電気やお水、苦勞はあるでしょうが、お手紙の様子から、無事に暮らしている様子が何となく安心しました。田舎の方へ行けば、明るい子供達と大切にされているお年寄りがいるという話は、なんだか嬉しかった。佐藤君を見送った6月の日、覚えています。アフリカの地にはどんな暮らしが待ちうけているのだろうかと思いました。もちろんこれから大変なことがたくさんあるでしょうが、佐藤君のお手紙で、アフリカにも私達と同じ日常があるということがわかってきました。本当に元気です。また、毎日の色々なこと知らせて下さいね。 ミルクホールより



TOPICS

KAMAKURA now

ささめやゆき 鎌倉四十八景

鎌倉在住の版画家であり、挿絵画家としても活躍中のささめやゆき氏が長年かけて、自ら鎌倉を散策して描いた、鎌倉の四季の絵葉書セットを発売しました。まだまだ知らない鎌倉を見つけて下さい。

第一シリーズは、春・夏・秋・冬の4セット。
秋のシリーズにはミルクホールも紹介されています。
春夏秋冬 1セット 4枚入り 450円

Information

ミルクホールオリジナルグッズのお知らせです。
ささめやゆき氏イラストのミルクホールのオリジナルグッズのうち、グラスが製造できなくなりました。今現在の在庫は残り少なくなっています。お求めのお客様はお早めに。

新発売 グーニーマグカップ近々発売!

ミルクホールオリジナルグッズに鎌倉の猫事情でお馴染みのグーニー君のマグカップが近く仲間入ります。お楽しみに。

LIVE

11/18 Sat pm 7:30

<http://www.e-half-moon.com/>

第三土曜日の夜は、ミルクホールのBAR TIMEを、ハーフムーンのライブでお楽しみ下さい

by 琢磨 仁 (Jin Takuma)
琢磨 啓子 (Keiko Takuma)

HALF MOONの音楽は
愛と平和を歌います。

Milk Hall Times

ミルクホール30周年記念
1976~2006

ミルクホールタイムス 総集編
「鎌倉ミルクホールタイムス」
1th ~ 100th

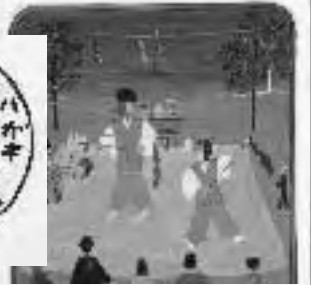
人気連載中の「鎌倉の猫事情」が第一話から掲載されています。
グーニーくんの出生や、愛妻スーピーとの宿命の出会いなど。
他に、ミルクホール30年の逸話の数々。
お楽しみ下さい。

¥1800

PARTY

ミルクホールの BAR ROOMで
パーティを開きませんか?

ミルクホールで少人数の
パーティを企画してみませんか?
ミルクホールでは、BAR ROOMを利用した、数人から15人程度の、小さなパーティを承っております。
お友達同士のパーティに、思い思いのスタイルで!
どうぞ、お気軽にご相談下さい。
カウンタースタッフまで
お問い合わせは、お電話かメールにて



HISTORY

KAMAKURA

場所の記憶 No.8 江ノ電

ささめやゆき氏の「鎌倉四十八景」の絵葉書を1枚1枚見ていくと、鎌倉に住みながら鎌倉のことを結構知らないということが今さらながら知りました。また、ほんの近くに居ていつも見慣れているような風景も、ささめやさんの目を通して描かれた鎌倉は、思いがけず楽しく懐かしく、つくづく毎日の暮らしの中にも発見はあるものだ気がします。

本当に鎌倉には古いもの新しいもの、海や山、暗い歴史もあり、心浮き立つ楽しい面もあります。「鎌倉四十八景」にも出てくる江ノ電が海辺をコトコトは走る風景は私が大好きな鎌倉の一つです。極楽寺の駅も描かれています。何か時代に取り残されたような、夢の中に出てくるような不思議なところでは。

江ノ電「江ノ島電気鉄道」は明治35年、日本で六番めの電気鉄道として、藤沢・片瀬間の3.4キロを走ることになりました。ちなみにわが国最初の電気鉄道は、明治28年1月、約6キロの京都電気鉄道が開通しています。その5年前の明治23年5月に第3回内国勸業博覧会が上野で開かれ、上野公園内にアメリカから輸入された電車2両が始めて運転され、これに刺激されて全国的に電鉄経営の企業熱が盛んになったようです。

生まれて初めて電車を見た人達の感動はどんなものだったでしょう。新しい時代への希望に胸を膨らませたに違いありません。今も地域を走り続け活躍する電気鉄道としては、江ノ電は日本で3番目に古い歴史を誇る電車です。江ノ電が現在のように、藤沢・鎌倉間まで全線開通したのは、明治43年10月30日です。

境川・片瀬川・行合川の鉄橋、極楽寺のトンネルなどの工事について、明治43年に横須賀線との立体交差の工事が完成しました。当時、江ノ電は横須賀線のガードをくぐって鎌倉駅の東口、島森書店前の若宮大路の路上を終点鎌倉駅としていました。年配の方達が、「島森の前に、江ノ電の駅があったねえ」などと懐かしそうに話すのを聞いたことがあります。

明治37年の運賃は、藤沢・極楽寺間
1等36銭、3等18銭。1区間は1等4銭、3等が2銭でした。

ミルクホールオリジナル 和の小もの
大正・昭和初期時代の絹の着物の布地を
素材に使った和の小もの色々です

ミルクホールでは、
大正・昭和初期の着物をほぐし、
昔の絵柄の豊かさと、古い絹の
やわらかい 手触りを生かして、
半襟や帯揚げなどを作っています。
夢二の描いた女性達のように、
絹の着物なら、花柄の半襟、
帯揚げは明るい色の絞り・・・
などと、自由に楽しい
組み合わせを
お楽しみ下さい。

つくり帯
半襟・帯揚げ
くるみボタン
かんざし

半襟・帯揚げ

着物はコーディネート
で楽しみたいもの。
アンティークの半襟・帯揚
げは既成品より安価で、
素材も豊富です。

半襟 ¥800より
帯揚げ ¥800より

つくり帯

古い帯を裁断し、ミシンで
しっかり縫い上げました。
着物は普段着慣れていないと、
締めるのがおっくうになって
しまいます。せめて帯は簡単
に結びたいものです。
何本か持っている着物が
身近になってきます。
初心者の方はもちろん、
着物に慣れた方にも、
お気に入りのつくり帯をお持
ちになることをお勧めします。
またお買い上げの帯も
つくり帯にお仕立て致します。



かんざし

★ミルクホール製木のかんざし

木の棒1本だけで、髪をくるくる
まどめて自由自在にアップにする
ことができます。

髪の長さや質に合わせて、木の
棒の長さをお選び下さい。

洋服にも、着物にも気軽に楽しめ
ます。木のかんざし ¥1800より

★ミルクホール製花のかんざし

大正・昭和初期の着物の生地で
可愛い花のかんざしを作りました。
手間のかかるものなので、数に限り
があります。

花のかんざし ¥2500より

★くるみボタンのコーム

古い絹で作ったミルクホールの
くるみボタンでコームを作りました。
同じものが2つとないのが魅力です。

くるみボタンのコーム小 ¥1200

大 ¥2000

古布・ボタン

★★くるみボタン

小¥100 より 大200円

★明治藍染布団皮

★端布色々 新入荷

楽しい端布が沢山入りました。

大きき色々使い方色々、
絞りや、紬、銘仙、モスリンなど
少し前の日本の布地。

和洋家具

- ★★★昭和20年代三面鏡鏡台 ¥45000
- ★★大正時代水屋筆筒二段新入荷 ¥98000
- ★★明治時代帳場筆筒二段 ¥128000
- ★アンティークカフェチェア 特価¥10000より
- ★★昭和初期鏡台 ★脇台 ¥12000
- ★箱各種新入荷 ¥4500より
- ★格子建具

アンティーク

- ★★大正照明器具各種
- ★レプリカシェード¥5800より
- ★明治・大正の色ガラス
- ★★アメリカ製カーミット
- 電話機(使用可) ¥18000
- ★★昭和初期レトロポスター
- ★★大正婦人像額絵



古陶磁

- ★★近々新入荷！
- 鯨の染付の
- 昭和20年代四国の
- 砥部焼が好評につき
- 再度入荷します。
- なます、楕円皿
- 猪口、深鉢など
- ★★古伊万里各種
- ★★大正色絵各種
- ★★幕末染付大皿
- ★伊万里7寸皿各種
- そば猪口各種
- ★明治九谷絵皿
- ・猪口



ANTIQUES

着物・古着

★★銘仙着物 新入荷

大正・昭和初期に大流行した銘仙の
着物多数入荷しました。

当時の最先端のデザインが取り入れ
られた奔放で大胆な配色と斬新な図
案に、戦前の暗い時代の空気は感じ
られず、むしろたくましく生きる自由
な人々の姿が見えてきます。

絞り羽織	¥3800より
ウール着物	¥5800より
銘仙着物	¥6500より
紬 無地	¥7800
大島紬	¥14800より

